

シラバス参照

授業科目名	データサイエンス基礎
単位数	2
授業形態	演習
講義コード	1536
授業担当者氏名	天野美穂子(アマノ ミホコ) 小池新(コイケ アラタ) 新関隆(ニイゼキ タカシ)

授業担当者がどの授業回を担当しているかわかるよう、下記シラバス項目「授業計画」の各回に担当教員名を記載する(2ページ目参照)

授業の到達目標 (ディプロマポリシーとの関連)	(1) データサイエンスに関する基礎的な概念を理解し、社会における実際のデータ・課題を適切に読み解くことができる。(導入) (2) データを活用する上で必要な倫理面での留意事項を理解することができる。(心得) (3) データの基礎的な分析方法を知り、活用することができる。(基礎)																								
授業概要	「データサイエンス」は、データから有益な情報・知見を引き出す学問分野です。現代社会では、この「データサイエンス」の視点・技術が、課題解決や新しい価値の創造に活かされています。この授業では、「データサイエンス」の視点を活用し、社会におけるさまざまな事象を適切に読み解く力を身につけ、さらには、「答のない課題」に対して最善な解につながる思考力や解決力を養うことを目指します。 授業は、(1)現代社会におけるデータ・AIの利活用(導入)、(2)データ・AIを活用する上での倫理面での留意事項(心得)、(3)データの分析(基礎)、の大きく3つの内容で構成されています。これら3つに関して、「各学部・学科の専門分野」や「教育」とのつながりを意識しながら、「講義」(主に(1)と(2))、「Excelを使用した演習」(主に(3))、の双方の形式によって学んでいきます。																								
科目ナンバリング	1-KKY-1-A10-1-2/1-KKY-1-A12-1-2																								
科目ナンバリングについて	科目ナンバリングとは、授業科目に各々の番号を付すことで、学問分野や学修の段階等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。科目ナンバーは次のように構成されています。 1 - AAA - 1 - A01 - 1 - 1 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (1)設置 大区分(大学・短大) (2)設置 小区分(学部、学科、専攻等) (3)科目分類 大区分(共通科目、専門科目等) (4)科目分類 小区分(学問分野を体系化し分類) (5)配当学年 (6)科目種別(卒業に係る必修・選択の区分) 詳細は下記をご覧ください。																								
科目ナンバリング参照ページ	https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/course_number/post_3.html																								
授業の特徴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>特徴</th> <th>該当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B: 課題解決型(PBL)連携なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>C: 討議(ディスカッション、ディベート等)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D: グループワーク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>E: プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>F: 実習、フィールドワーク</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>I: 反転授業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>J: 外国語のみで行われる授業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	特徴	該当	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり		B: 課題解決型(PBL)連携なし		C: 討議(ディスカッション、ディベート等)		D: グループワーク		E: プレゼンテーション		F: 実習、フィールドワーク	○	G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)		H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)	○	I: 反転授業		J: 外国語のみで行われる授業		K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業	
特徴	該当																								
A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり																									
B: 課題解決型(PBL)連携なし																									
C: 討議(ディスカッション、ディベート等)																									
D: グループワーク																									
E: プレゼンテーション																									
F: 実習、フィールドワーク	○																								
G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)																									
H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)	○																								
I: 反転授業																									
J: 外国語のみで行われる授業																									
K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業																									
実施形態	メディア授業科目(オンデマンド配信)																								
実施形態について	※本学では、授業科目を以下のとおり分類しています。 対面授業科目: 授業回数の全部あるいは授業回数の半数以上を対面で行う授業科目 メディア授業科目: 上記「対面授業科目」以外で、主にメディアで行う授業科目 ※上記実施形態と異なる授業回がある場合は、以下「授業計画」欄に記載しています。																								

各授業回の担当教員を記載する

授業計画	第1回	オリエンテーション: データサイエンスとは (担当: 天野・小池・新聞)		
	第2回	現代社会におけるデータ・AIの利活用(1) データの集め方、データの利用 (担当: 新聞)		
	第3回	現代社会におけるデータ・AIの利活用(2) データ・AI利活用のための技術 (担当: 新聞)		
	第4回	現代社会におけるデータ・AIの利活用(3) AIリテラシー (担当: 新聞)		
	第5回	現代社会におけるデータ・AIの利活用(4) 各専門分野での活用事例 (担当: 新聞)		
	第6回	教育におけるデータサイエンス(1) データ活用事例 (担当: 天野)		
	第7回	教育におけるデータサイエンス(2) 個人情報、情報セキュリティ (担当: 天野)		
	第8回	データを読む(1) データの種類、代表値、分散 (担当: 天野)		
	第9回	データを読む(2) 母集団と標本抽出、アンケート調査 (担当: 天野)		
	第10回	データを説明する～データ図表表現 (担当: 小池)		
	第11回	データを扱う(1) Excelによる記述統計 (担当: 小池)		
	第12回	データを扱う(2) Excelによるクロス集計 (担当: 小池)		
	第13回	データを扱う(3) 相関分析・散布図 (担当: 小池)		
	第14回	現代社会におけるデータ・AIの利活用(5) まとめ、データサイエンスの応用事例 (担当: 天野・小池・新聞)		
授業外学修予習(事前学修)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>各授業</th> <td rowspan="2">各回の資料に目を通し理解を深める</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>[平均100分]</td> </tr> </tbody> </table>	各授業	各回の資料に目を通し理解を深める	[平均100分]
各授業	各回の資料に目を通し理解を深める			
[平均100分]				
授業外学修復習(事後学修)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>各授業</th> <td rowspan="2">各回の課題、および、授業内で理解が不十分であった箇所の復習</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>[平均100分]</td> </tr> </tbody> </table>	各授業	各回の課題、および、授業内で理解が不十分であった箇所の復習	[平均100分]
各授業	各回の課題、および、授業内で理解が不十分であった箇所の復習			
[平均100分]				
評価方法	各回の課題・小テスト(100%)			
教科書等	教科書: なし。必要に応じて資料を配布します。 参考書: 北川源四郎・竹村彰通(編)『データサイエンス入門シリーズ 教養としてのデータサイエンス』, 2021, 講談社。			
課題に対するフィードバックの方法	授業内で実施した課題について、必要に応じて解説を行います。			
その他	講義開始日に、全14回分の動画を公開します。受講にあたってのモデルスケジュールをmanaba上に掲載しますので、それを参考に計画的に学修を進めましょう。			
授業担当者の実務経験の有無	実務経験あり			
「授業担当者の実務経験の内容」および「実務経験を活かした授業内容」	小池: NTT研究所における情報ネットワークの研究、データ分析及び情報システムの開発を経験した教員がデータサイエンスの基礎について解説を行う。			
ファイル				

シラバス参照

授業科目名	教育・学校心理学
単位数	2
授業形態	講義
講義コード	3081
授業担当者氏名	三浦正江(ミウラ マサエ)

授業担当者が1名の場合においても、下記シラバス項目「授業計画」の各回に担当教員名を記載する(2ページ目参照)

授業の到達目標 (ディプロマポリシーとの関連)	<p>本授業では、教育・学校現場における様々な事象や問題について、心理学の理論や実践に基づいて理解・判断できる力を修得することが目標である。具体的な到達目標は以下のとおりである。</p> <p>①教育現場における基本的な制度について説明できる(DP1)。 ②乳幼児期から青年期までの心身の発達のプロセスや特徴について説明できる(DP1)。 ③学習や教授法に関する様々な理論について説明できる(DP1)。 ④発達障害や不登校・いじめ等の特徴や現状について説明できる(DP1, DP4)。 ⑤教育現場における問題・課題に対する様々な心理支援法や支援体制について説明できる(DP1, DP5)。 ⑥心理学の知識・理論に基づいて、児童生徒の諸活動への意欲・達成を高めるための方法や問題への対応方法を提案することができる(DP1, DP7)。 ⑦ペアあるいはグループワークを通して、自分とは異なる価値観や考え方を知り、新しい視点を吸収することができる(DP8)。 ⑧日本の教育現場に関する様々な課題について知り、自らの問題としてとらえることができる(DP4)。</p>																								
授業概要	<p>教育現場とは、児童生徒の身体・知力・社会性などの様々な側面を育てる場である。本授業では、これら多様な側面に関連する心理学の理論や支援方法について学ぶ。具体的には、①教育現場における基本的な制度や考え方、②乳幼児期から青年期までの様々な側面における発達、③知識や行動を習得するメカニズムとしての学習の理論、④様々な活動に対する意欲・達成に関する動機づけや教授法、⑤発達障害や不登校・いじめ等の問題やそれに対する心理支援法を取り上げる。</p> <p>本授業では、次回の授業までに予習課題等に取り組み、それを行った上でのグループワーク等を行う。講義科目ではあるが、能動的で参加型の取り組み態度を求める。</p>																								
科目ナンバリング	1-JSH-2-J01-2-2																								
科目ナンバリングについて	<p>科目ナンバリングとは、授業科目に各々の番号を付すことで、学問分野や学修の段階等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。科目ナンバーは次のように構成されています。</p> <p>1 - AAA - 1 - A01 - 1 - 1 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (1)設置 大区分(大学・短大) (2)設置 小区分(学部、学科、専攻等) (3)科目分類 大区分(共通科目、専門科目等) (4)科目分類 小区分(学問分野を体系化し分類) (5)配当学年 (6)科目種別(卒業に係る必修・選択の区分) 詳細は下記をご覧ください。</p>																								
科目ナンバリング参照ページ	https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/course_number/post_3.html																								
授業の特徴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>特徴</th> <th>該当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>B: 課題解決型(PBL)連携なし</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>C: 討議(ディスカッション、ディベート等)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>D: グループワーク</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>E: プレゼンテーション</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>F: 実習、フィールドワーク</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>I: 反転授業</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>J: 外国語のみで行われる授業</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	特徴	該当	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-	B: 課題解決型(PBL)連携なし	-	C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	○	D: グループワーク	○	E: プレゼンテーション	-	F: 実習、フィールドワーク	-	G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	○	H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)	○	I: 反転授業	○	J: 外国語のみで行われる授業	-	K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業	
特徴	該当																								
A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-																								
B: 課題解決型(PBL)連携なし	-																								
C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	○																								
D: グループワーク	○																								
E: プレゼンテーション	-																								
F: 実習、フィールドワーク	-																								
G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	○																								
H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)	○																								
I: 反転授業	○																								
J: 外国語のみで行われる授業	-																								
K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業																									

実施形態	対面授業科目																												
実施形態について	<p>※本学では、授業科目を以下のとおり分類しています。 対面授業科目：授業回数の全部あるいは授業回数の半数以上を対面で行う授業科目 メディア授業科目：上記「対面授業科目」以外で、主にメディアで行う授業科目 ※上記実施形態と異なる授業回がある場合は、以下「授業計画」欄に記載しています。</p>																												
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション, 教育の制度・法律・倫理 (担当：三浦)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>発達①: 身体・運動や認知・言語の発達 (担当：三浦)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>発達②: 社会性やパーソナリティの発達 (担当：三浦)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>【メディア授業(オンデマンド配信)】学習①: 様々な学習理論 (担当：三浦) 各自のペースで繰り返し学習するためメディア授業で実施</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>学習②: 学習理論に基づく児童生徒の理解と心理支援 (担当：三浦)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>動機づけ: 動機づけの理論 (担当：三浦)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>【メディア授業(オンデマンド配信)】教授法: 様々な授業形態・学修方法 (担当：三浦) 各自のペースで繰り返し学習するためメディア授業で実施</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>学校における環境要因: 教師の影響 (担当：三浦)</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>【メディア授業(オンデマンド配信)】教育現場における問題と心理アセスメント①: 発達障害 (担当：三浦) 各自のペースで繰り返し学習するためメディア授業で実施</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>教育現場における問題と心理アセスメント②: 心身の疾患 (担当：三浦)</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>教育現場における問題と心理アセスメント③: 不登校、いじめ(ゲストスピーカー) (担当：三浦)</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>教育現場における心理支援①: スクールカウンセリングとチーム学校の考え方 (担当：三浦)</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>教育現場における心理支援②学級: 集団を対象とした開発的・予防的な心理支援 (担当：三浦)</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>講義全体のまとめ (担当：三浦)</td> </tr> </table>	第1回	オリエンテーション, 教育の制度・法律・倫理 (担当：三浦)	第2回	発達①: 身体・運動や認知・言語の発達 (担当：三浦)	第3回	発達②: 社会性やパーソナリティの発達 (担当：三浦)	第4回	【メディア授業(オンデマンド配信)】学習①: 様々な学習理論 (担当：三浦) 各自のペースで繰り返し学習するためメディア授業で実施	第5回	学習②: 学習理論に基づく児童生徒の理解と心理支援 (担当：三浦)	第6回	動機づけ: 動機づけの理論 (担当：三浦)	第7回	【メディア授業(オンデマンド配信)】教授法: 様々な授業形態・学修方法 (担当：三浦) 各自のペースで繰り返し学習するためメディア授業で実施	第8回	学校における環境要因: 教師の影響 (担当：三浦)	第9回	【メディア授業(オンデマンド配信)】教育現場における問題と心理アセスメント①: 発達障害 (担当：三浦) 各自のペースで繰り返し学習するためメディア授業で実施	第10回	教育現場における問題と心理アセスメント②: 心身の疾患 (担当：三浦)	第11回	教育現場における問題と心理アセスメント③: 不登校、いじめ(ゲストスピーカー) (担当：三浦)	第12回	教育現場における心理支援①: スクールカウンセリングとチーム学校の考え方 (担当：三浦)	第13回	教育現場における心理支援②学級: 集団を対象とした開発的・予防的な心理支援 (担当：三浦)	第14回	講義全体のまとめ (担当：三浦)
	第1回	オリエンテーション, 教育の制度・法律・倫理 (担当：三浦)																											
	第2回	発達①: 身体・運動や認知・言語の発達 (担当：三浦)																											
	第3回	発達②: 社会性やパーソナリティの発達 (担当：三浦)																											
	第4回	【メディア授業(オンデマンド配信)】学習①: 様々な学習理論 (担当：三浦) 各自のペースで繰り返し学習するためメディア授業で実施																											
	第5回	学習②: 学習理論に基づく児童生徒の理解と心理支援 (担当：三浦)																											
	第6回	動機づけ: 動機づけの理論 (担当：三浦)																											
	第7回	【メディア授業(オンデマンド配信)】教授法: 様々な授業形態・学修方法 (担当：三浦) 各自のペースで繰り返し学習するためメディア授業で実施																											
	第8回	学校における環境要因: 教師の影響 (担当：三浦)																											
	第9回	【メディア授業(オンデマンド配信)】教育現場における問題と心理アセスメント①: 発達障害 (担当：三浦) 各自のペースで繰り返し学習するためメディア授業で実施																											
	第10回	教育現場における問題と心理アセスメント②: 心身の疾患 (担当：三浦)																											
	第11回	教育現場における問題と心理アセスメント③: 不登校、いじめ(ゲストスピーカー) (担当：三浦)																											
	第12回	教育現場における心理支援①: スクールカウンセリングとチーム学校の考え方 (担当：三浦)																											
	第13回	教育現場における心理支援②学級: 集団を対象とした開発的・予防的な心理支援 (担当：三浦)																											
第14回	講義全体のまとめ (担当：三浦)																												
授業外学修予習(事前学修)	<table border="1"> <tr> <td>各授業</td> <td rowspan="2">授業ごとに、次回までの予習課題等(ワークシート課題、動画視聴、調べ学習など)についてアナウンスする。</td> </tr> <tr> <td>45分~100分程度</td> </tr> </table>	各授業	授業ごとに、次回までの予習課題等(ワークシート課題、動画視聴、調べ学習など)についてアナウンスする。	45分~100分程度																									
各授業	授業ごとに、次回までの予習課題等(ワークシート課題、動画視聴、調べ学習など)についてアナウンスする。																												
45分~100分程度																													
授業外学修復習(事後学修)	<table border="1"> <tr> <td>各授業</td> <td rowspan="2">授業内容について振り返り、学習内容をまとめる。学習内容に関連する論文、書籍、新聞記事などを講読し、理解を深める。</td> </tr> <tr> <td>100分程度</td> </tr> </table>	各授業	授業内容について振り返り、学習内容をまとめる。学習内容に関連する論文、書籍、新聞記事などを講読し、理解を深める。	100分程度																									
各授業	授業内容について振り返り、学習内容をまとめる。学習内容に関連する論文、書籍、新聞記事などを講読し、理解を深める。																												
100分程度																													
評価方法	<p>全ての授業に出席することが単位取得の前提である。その上で、①授業参加態度(予習・復習課題の実施状況・内容など:40%)、②最終試験(50%)、③自主レポート(10%)を総合して評価する。 授業参加状況は、提示された予習課題・復習課題の記入内容等で評価する。自主レポートは、教育心理学・学校心理学に関する論文・書籍等を自発的に講読してレポートにまとめて提出した場合に評価対象とする。</p>																												
教科書等	特になし。授業ごとに資料を配布する。また、参考図書等は授業中やmanaba等で適宜紹介する。																												
課題に対するフィードバックの方法	授業中に口頭で、あるいはmanaba掲示板でコメント・講評を行います。																												
その他																													
授業担当者の実務経験の有無	実務経験あり																												
「授業担当者の実務経験の内容」および「実務経験を活かした授業内容」	<p>スクールカウンセラーの経験のある担当者が、児童生徒理解や学校教育現場における諸問題について心理学的視点から講義を行うことで、理論と実践を結び付けた学習を促進する。</p>																												
ファイル																													

各授業回に担当教員名を記載する

ゲストスピーカーの回は「(ゲストスピーカー)」の記載と、担当教員名を記載する

シラバス参照

授業科目名	インターンシップ
単位数	4
授業形態	実験・実習・実技
講義コード	2172
授業担当者氏名	若井広太郎(ワカイ コウタロウ)

授業の到達目標 (ディプロマポリシーとの関連)	<p>1 学校現場に教育者としての責任感を持って長期的・主体的に参加し、教職員や児童と適切なコミュニケーションをとることができる。(DP6・DP7・DP8)</p> <p>2 現代の子どもの生活課題について、実際の姿をイメージしながら説明することができる。(DP4・DP5)</p> <p>3 多くの子どもや教職員と関わる経験から、教育者としての自分の強みと課題について考えることができる。(DP5・DP6)</p>																								
授業概要	<p>各都道府県及び市区町村教育委員会が募集する年間を通した小学校でのボランティア活動(ちば！教職たまごプロジェクト、神奈川県教育委員会スクールライフサポーター、さいたま市アシスタントティーチャー等)又は本学科が紹介する都内公立小学校での学校ボランティア(前年度1月までに応募)に申し込み、年間160時間程度の実践研修を行い、その成果を大学授業にて定期的に報告する。</p> <p>原則として、小学校教諭一種免許状のみを取得予定の学生(幼稚園教諭や中学校教諭を取得しない学生)であり、希望する教育委員会のボランティア活動等に、大学のインターンシップ単位としての参加が認められた者を本科目履修の条件とする。</p> <p>※前年度中に参加申し込みを行う必要のあるボランティアが多い。履修希望者は、事前に自分の参加できるボランティア先が確保できるのかを確認すること。4月中にボランティア先を確保できない場合は履修不可。</p> <p>※有償ボランティアを本科目の学外実習にあてることができない。</p>																								
科目ナンバリング	1-JSK-2-H01-3-2																								
科目ナンバリングについて	<p>科目ナンバリングとは、授業科目に各々の番号を付すことで、学問分野や学修の段階等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。科目ナンバーは次のように構成されています。</p> <p>1 - AAA - 1 - A01 - 1 - 1</p> <p>(1) (2) (3) (4) (5) (6)</p> <p>(1)設置 大区分(大学・短大) (2)設置 小区分(学部、学科、専攻等)</p> <p>(3)科目分類 大区分(共通科目、専門科目等) (4)科目分類 小区分(学問分野を体系化し分類) (5)配当学年</p> <p>(6)科目種別(卒業に係る必修・選択の区分)</p> <p>詳細は下記をご覧ください。</p>																								
科目ナンバリング参照ページ	https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/course_number/post_3.html																								
授業の特徴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>特徴</th> <th>該当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>B: 課題解決型(PBL)連携なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>C: 討議(ディスカッション、ディベート等)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>D: グループワーク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>E: プレゼンテーション</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>F: 実習、フィールドワーク</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>I: 反転授業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>J: 外国語のみで行われる授業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	特徴	該当	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	○	B: 課題解決型(PBL)連携なし		C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	○	D: グループワーク		E: プレゼンテーション	○	F: 実習、フィールドワーク	○	G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)		H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)	○	I: 反転授業		J: 外国語のみで行われる授業		K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業	
特徴	該当																								
A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	○																								
B: 課題解決型(PBL)連携なし																									
C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	○																								
D: グループワーク																									
E: プレゼンテーション	○																								
F: 実習、フィールドワーク	○																								
G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)																									
H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)	○																								
I: 反転授業																									
J: 外国語のみで行われる授業																									
K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業																									
実施形態	対面授業科目																								
実施形態について	<p>※本学では、授業科目を以下のとおり分類しています。</p> <p>対面授業科目 : 授業回数の全部あるいは授業回数の半数以上を対面で行う授業科目</p>																								

担当教員が学生への直接指導を行う授業回
 学内・学外に限らず担当教員名「(担当: xxx)」を
 記載する

メディア授業科目: 上記 ※上記実施形態と異なる				
授業計画	第1回 オリエンテーション インターンシップ参加の条件と実際の進め方【対面授業】(担当: 若井)			
	第2回 インターンシップの目的と意義、教育者としての責任【対面授業】(担当: 若井)			
	第3回 インターンシップへの参加(学外実習)			
	第4回 インターンシップへの参加(学外実習)(担当: 若井)			
	第5回 インターンシップへの参加(学外実習)			
	第6回 報告会1 インターンシップ参加から学んだこと(小学校での感染症対策の工夫)【対面授業】(担当: 若井)			
	第7回 インターンシップへの参加(学外実習)			
	第8回 インターンシップへの参加(学外実習)			
	第9回 インターンシップへの参加(学外実習)			
	第10回 報告会2 インターンシップ参加から学んだこと(教育者)			
	第11回 インターンシップへの参加(学外実習)			
	第12回 インターンシップへの参加(学外実習)			
	第13回 インターンシップへの参加(学外実習)			
	第14回 報告会3 インターンシップ参加から学んだこと(子どもの姿に感動した事例)【対面授業】(担当: 若井)			
授業外学修 予習(事前学修)	<table border="1"> <tr> <td>各授業</td> <td rowspan="2">インターンシップとして参加する実習校及び教育委員会のHP等から、各校の教育方針や求める教師像を説明できるようにしておく。インターンシップ参加後は、活動から学んだことを大学での対面授業で報告できるよう資料作成と発表準備を行う。</td> </tr> <tr> <td>[平均100分]</td> </tr> </table>	各授業	インターンシップとして参加する実習校及び教育委員会のHP等から、各校の教育方針や求める教師像を説明できるようにしておく。インターンシップ参加後は、活動から学んだことを大学での対面授業で報告できるよう資料作成と発表準備を行う。	[平均100分]
各授業	インターンシップとして参加する実習校及び教育委員会のHP等から、各校の教育方針や求める教師像を説明できるようにしておく。インターンシップ参加後は、活動から学んだことを大学での対面授業で報告できるよう資料作成と発表準備を行う。			
[平均100分]				
授業外学修 復習(事後学修)	<table border="1"> <tr> <td>各授業</td> <td rowspan="2">インターンシップへの参加した回については、大学指定書式にて報告書を作成すること。対面授業後には、他学生の報告を参考に自己のインターンシップ参加の課題と具体的改善策について考える。</td> </tr> <tr> <td>[平均100分]</td> </tr> </table>	各授業	インターンシップへの参加した回については、大学指定書式にて報告書を作成すること。対面授業後には、他学生の報告を参考に自己のインターンシップ参加の課題と具体的改善策について考える。	[平均100分]
各授業	インターンシップへの参加した回については、大学指定書式にて報告書を作成すること。対面授業後には、他学生の報告を参考に自己のインターンシップ参加の課題と具体的改善策について考える。			
[平均100分]				
評価方法	<p>インターンシップ参加日(年間160時間)についての報告書70%、大学(対面授業)での成果報告30%</p> <p>※実習校(または各教育委員会)の理由により、インターンシップ参加日が、年間目標値を下回る場合、同年度末までに目標値を上回る見込みがある場合には、上記方法と同様に単位認定を行う。</p> <p>※※実習校(または各教育委員会)の理由により、インターンシップ参加日が、同年度末まで期間を延長した場合にも目標値を下回る場合は、120時間以上の参加がある場合に大学授業での個別補講等も行い、単位認定を行う。</p>			
教科書等	特になし(必要に応じて、対面授業時にプリントを配布する)。			
課題に対するフィードバックの方法	大学での対面授業時(月1回程度)にフィードバックを行う。			
その他	<p>インターンシップの実習先は、自己開拓となります(「ちば! 教職たまごプロジェクト」と本学科の紹介する都内公立小学校での学校ボランティアは、前年度募集期間に応募した学生のみを対象とする)。</p> <p>履修希望者は、初回授業に自分の参加予定のボランティア先の情報をプリントアウトした資料を持参し、小学校にて年間160時間の参加が可能であることを具体的に説明してください。</p>			
授業担当の実務経験の有無	実務経験あり			
「授業担当の実務経験の内容」および「実務経験を活かした授業内容」	<p>①特別支援学校教諭としての勤務経験等</p> <p>②子どもの生活や小学校教育の現状、指導案作成について指導する。</p>			
ファイル				

担当教員が学生への直接指導を行わない授業回
 担当教員名を記載しない

以下に該当する場合も担当教員名を記載しない
 ・授業担当教員でない教員の実習巡回等